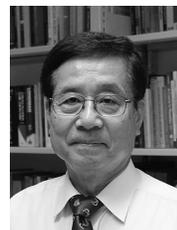


“It’s an expression.”



中根貞幸

“It’s an expression.”カナダのある家庭に泊めていただいた時に初めて聞いた。日本人学生が多いパーティでもホストファミリーの誰かがそう言っているのを耳にした。何かの決まり文句を説明するために使われたようだった。これを「それは表現です」と訳してもあまり意味がない。面白い表現だと記憶に残った。

これを例示するのにお誂え向きのやりとりが Carolyn Ives Gilman の短編小説 “Okanoggan Falls” (2007) にある。町のどこかに昔の宝物が埋まっているという話を聞いたと言いながら Groton 船長が古いフランスの地図を取り出したときに、話し相手の Susan が笑いながら “You didn’t fall for it, did you?” と言う。すると船長は怪訝な顔をして “No, I didn’t fall down.” と言う。船長は英語が母語ではないが、英語はとても達者である。しかし、とんちんかんな応答なので、Susan は “It’s an expression, to fall for something. It means he was pulling your leg.” と説明する。ところが、また ‘pull one’s leg’ という熟語を使ったために事はややこしくなる。船長は “Pulling my leg. And so I was supposed to fall down?” と訊ねる。‘fall for’ という句動詞の意味が分からなかった相手に「倒れる」こととは関係なく、「一杯食わせる」という意味だと説明しようとして、またまた「一杯食わせる」という意味の熟語を使ったため、話がますますややこしくなるという落ちがついている。

‘fall for’ や ‘pull one’s leg’ は一般の英和辞典に出てくるし、詳しくは句動詞辞典やイディオム辞典を見ればよい。しかし、辞書で解決できるイディオムばかりではない。“She’ll end up on a milk carton.”と言われても、英語ネイティブでもピンとこない人がいるだ

ろう。文字どおりには「牛乳パックの上で終わる」という意味だが、そういう状況は想像しがたい。これは子供が誘拐されたりして行方不明になり、最後には、顔写真が牛乳パックに載るということを意味する。これを知れば、なぜ前置詞が *on* なのか納得できる。1980年代のアメリカで、行方不明者の捜索に協力する運動が乳業者を中心に行われた。やがて下火になっていったようだが、このような社会現象を知らなければ、この悲しい熟語の意味は分からない。イギリス英語にも ‘gone for a burton’ というイディオムがある。本来は「バートンビールを飲みに行った」ということだが、第二次世界大戦の頃に「行方が知れない→戦死した」ことを婉曲的に言うために用いられた。今では、年配のイギリス人以外にはあまり馴染みがないだろう。

“It’s an expression.” は、それだけでは意味が不十分だが、“It’s an expression (of an idea).” のような文を単純化したものだと思われる。Gilman の例では、“It has nothing to do with someone falling or pulling your leg.” というような気持ちの表明で、*fall*, *pull*, *leg* などの語の指示的意味とは関係なく、それとは別のことを言うための表現にすぎないということだ。現に、“It’s just an expression.” と *just* を入れて強調することも多い。“It’s an idiom.” と言われた方が英語学習者には分かりやすい。しかし、言語学習にあまり関心がない一般の人には “It’s an expression.” という方が自然なのかも知れない。「どうしてそう言うのかは分からないが、そのように言うものだ」というようなニュアンスがある。“Why do you say so?” などとそれ以上は訊ねないのが礼儀だろう。

(なかね さだゆき・福井大学特命教授)